

論文の内容の要旨

論文題名

底つき体験がアルコール依存症治療の精神科外来通院継続に与える影響

掲載雑誌名

昭和学会雑誌 2022年 掲載予定

医学研究科内科系精神医学専攻 博士課程 須藤 英隼

内容要旨

【背景・目的】

アルコール依存症は身体的・経済的・社会的な害を引き起こす。低い受診率や治療継続率が課題とされ、その向上のために飲酒による家族、健康、財産などの喪失の体験によって断酒に至る、底つき体験が必要とされてきた。本研究では、海外の先行研究を元に底つき体験を定義し、その有無によりアルコール依存症患者の背景や外来治療継続に違いがあるのかを比較検討した。

【方法】

2016年4月1日から2019年8月31日までに昭和大学附属烏山病院アディクション専門外来初診のアルコール依存症と診断された患者を対象とした。診療録を用いて性別、年齢、身体及び精神疾患併存の有無、同居人の有無、初診時の就労の有無、生活保護受給の有無、当院初診時の住所が世田谷区内か区外か、集団治療プログラム参加の有無、自助グループ参加の有無、当院初診後の当院入院の有無、外来治療継続期間、そして受診前の底つき体験の有無について調査した。底つき体験の有無で二群に分け調査項目について単変量および多変量解析を、また外来治療継続に与える影響を検討するためKaplan-Meier法及びLog-rank検定にて生存分析、Cox比例ハザードモデルを用いた多変量解析を実施した。

【結果】

様々な要因を考慮しても底つき体験の有無は外来治療継続に影響しなかった(P value = 0.10)。

【考察】

アルコール依存症治療には底つき体験を待たずに早期介入を積極的にするべきであるという我々の考えを支持する結果であった。